

中高生の読書への興味向上のためのブックリストに関する検討

望月 加代

子どもの読書離れが学年が上がるにつれて進行することが指摘されており、中高生の読書興味向上が求められている。中高生の読書興味向上のためには、読書を強制するのではなくヤングアダルトサービスにおけるブックリスト（一定の基準に沿って本を選びリスト化したもの）を通して本を紹介し、興味を抱かせることが有用であると考えられる。ブックリストは図書館員による作成が主流であるが、中高生が参加する事例も出てきている。

本研究の目的は、公共図書館のブックリストの作成目的や内容に基づきタイプ分けをすること(目的 1)、タイプごとに中高生の読書への興味向上のためのブックリストに必要な要素を提案すること(目的 2)、目的 2 で提案した要素を実現するための作成手順や留意点を提示すること(目的 3)の 3 点である。調査対象は、ブックリスト作成に熱心な公共図書館 6 館を選定し、ブックリストの作成者である図書館員や中高生に協力を依頼した。これらの目的を達成するために質問紙調査、聞き取り調査、ブックリストの収集と分析を行った。

本研究では主に以下のような結果が示された。

- (1) 目的 1 について、ブックリストは書誌情報と解題のみで構成される「カタログ型」と図書紹介以外の記事を含む「読み物型」に分類できることが示された。
- (2) 目的 2 について、カタログ型の場合、中高生の多様な興味関心に対応できる幅広い選書を行うこと、興味を誘う表紙の写真を掲載すること、1 ページの掲載冊数は 10～12 冊以内、全体の掲載冊数は 40 冊以上とすること、掲載冊数が多くても見づらくなならないようレイアウトを工夫すること、持ち運びが容易なサイズの冊子体であることが必要であることが示された。読み物型の場合、記事に関連する本を紹介することで多方面から読書への興味を喚起すること、定期刊行とテーマの様々な記事の掲載で幅広い図書紹介を実現すること、文字の羅列にならないよう効果的な挿絵選びやレイアウトの工夫を行うこと、記事の内容や分量に最適な形状を選ぶことなどが必要であることが示された。
- (3) 目的 3 について、カタログ型の作成は幅広い選書や個人負担削減のため多人数で作成すること、頻繁な発行は難しいため担当者が変わっても刊行が継続できる体制を作ることが必要であることが示された。読み物型の作成は地域住民への取材などにより低予算でも充実した記事を作成すること、作業分担やテンプレートの作成による個人負担の削減などが必要であることが示された。また、今後の課題として、カタログ型・読み物型に共通して、参加する中高生の人数の維持やブックリストの読者増加のために、人員確保や配布環境の向上について図書館側が積極的に行動する必要があることが示された。今回の調査対象のブックリストは図書館員主体で作成を行っている事例が多かったため、今後は、中高生主体で作成を行っている事例をさらに収集することなどが望まれる。

(指導教員 鈴木佳苗)